

令和２年度 第２回山田町総合教育会議 会議録

■開催日時 開会 令和３年３月２５日（木）午後３時００分  
閉会 令和３年３月２５日（木）午後４時００分

■開催場所 山田町役場 ４階特別応接室

■出席者 佐藤 信 逸 町長  
佐々木 茂 人 教育長  
小野寺 恵 美 教育委員  
中 村 敏 彦 教育委員  
福 士 久 雄 教育委員  
■欠席者 長 崎 千 秋 教育委員

[事務局]

川守田復興企画課長（オブザーバー）

箱山教育次長兼学校教育課長、木戸脇復興企画課長補佐、花崎政策推進係長

■傍聴者 なし  
■内 容 次のとおり

１ 開会（木戸脇復興企画課長補佐）

２ 町長あいさつ

日頃より教育行政に対し、深いご理解ご協力を賜り感謝を申し上げます。  
私は先程、ドコモの社員応援募金の寄付金の贈呈がわんぱく公園でございまして、急いで来たのですが、これは３．１１にちなんで３１１円を全国のドコモの社員の皆様から募り、集まった寄付金を被災地に贈呈するというものでございます。このわんぱく公園には、先日まで１０世帯ばかりの仮設住宅がありましたが、今年度で仮設住宅は全てなくなりまして、そこに遊具を寄附頂いております。過去には大沢小学校や織笠小学校にも遊具を頂いており、現在は山田小学校の方に移設して使わせて頂いております。これまでの合計で一千万円以上の寄附を頂いており、先程贈呈式をしてきたところでございます。

皆様ご案内のとおり、昨年、一昨年のところで学校再編という大変大きな事業を、町民のご理解のもとに進めてきたところでございます。こういう状況下において、３月１３日には山田中学校の卒業式が行われまして、豊間根中学校と一緒に初めての卒業式ということでございました。どういう学校になっているのかなということも含めて、興味を持ちながら臨んだところでありますが、私は教育の素人ではありまして、皆様と違った視点でものを見ているのかもしれませんが、素晴らしい卒業式でありました。豊間根中学校の生徒と、山田中学校の生徒と一緒に相乗効果を発揮した

卒業式で、子どもたちもまさしく生き生きとした眼差しであったと感じました。学校給食におきましても、順調に進みまして、お父さんお母さん方から評価を頂いているところでございます。ぜひ令和6年4月からの新小学校に向けても、多くの皆様方や教育委員に皆様方からも色々な知見を頂きながら、将来、日本・岩手県・山田町を背負って立つ児童を輩出していけるような、そういう学校にしていきたいと考えています。

本日は総合教育会議ということでございます。色々な意見を交換し合いながら、子どもたちのために手を携えて頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 3 教育長あいさつ

おかげさまで持ちまして、小学校・中学校、今年度無事卒業いたしました。この1年間、コロナ禍の中で、そして先程町長が話されたように統合した中で、この1年間よく頑張ってくれたと思います。町長は卒業式にも参加されまして、その後も校長室に残られまして、校長先生に直接労いの言葉をかけてくださいました。大変ありがたかったです。見送りに行った先生方にも、卒業式のお褒めの言葉を直接かけてくださりまして、なかなか普通の先生って首長から声を掛けられることは、ほとんどないことですが、あのようなお褒めの言葉を直接頂いたことで、先生方も励みになると思います。

本日は教育大綱が協議でございます。これは大変重要なものでございまして、教育大綱を踏まえまして、来年度、教育振興計画を策定していくこととなります。そういった意味で本日は大事な会議になりますので、皆様でいいものを作っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 4 協議事項

[川守田課長]

本日、ご協議頂きます「山田町教育大綱」についてでございますが、平成27年4月1日に教育行政組織の運営に関する法律が一部改正されたことに伴いまして、「地方自治体の長は、教育基本法に規定する国の教育振興基本計画を参酌して、地域の実情に応じて、教育・学術及び文化に関する総合的な施策の大綱を定めること」というふうにされたところでございます。今年度、町では令和3年度から始まる「第9次山田町総合計画後期基本計画」を策定してございます。その計画と整合性を持った形で「山田町教育大綱」ということで策定するものでございます。内容の説明につきましては、復興企画課花崎係長よりご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(資料説明：花崎係長)

#### (1) 山田町教育大綱について

[教育長]

基本理念の「まちがひとを育む」というのは、私も常日頃から町全体で、地域ぐるみで子どもたちを育てていこうということで、基本理念に掲げられたというのはすごくいいなと思っております。やはりみんなで創っていかなければならないだろうと思ってお

り、いたく感心しているところでございます。基本目標（３）豊かな心と生きがいに満ちた「まちづくり」は、豊かな心に満ちたまちづくりということですね。このイメージはどのようなものなのかお聞かせください。

〔花崎係長〕

生涯学習の部分と言いますか、大人になっても学び続けていくということで、様々なことに取り組める、という点を含んで「豊かな心」と表現しています。

〔教育長〕

いわんとするところは分かります。これまでまちづくりと豊かな心が結びついてこなかったのです。ここを結びつけるまちづくりを目指すということでわかりました。

〔福士委員〕

基本理念のところの、創作の「創」を使うのは、新しいものを創り出すイメージを私は持ちます。ですから、ひとがまちを創りってことは、ひと自身が新しいまちづくりを現在いまやっているわけで。まちとひとだから、ひとも新しく色々なことを学びながら創り出していくという、いわゆる基本目標の中の、夢や希望だとか豊かな心だとか生きがいを創り出していくんだということが、いいまちになり、住民が暮らしやすいまちになるイメージなのかなと聞いたところですよ。これは非常に大きい話なので、今説明を受けても、ピンとこない点が多々あります。

〔町長〕

「ひとがまちを創り まちがひとを育む」のところではどうですか。

〔教育長〕

わたしは、非常にインパクトが強いなと思っていました。従来のものよりも、更に膨らませるというか、もっとプラス的なイメージを持ったので、あえてこの言葉を使ったのかなというニュアンスで受け止めました。

〔小野寺委員〕

何でもそうですが、何かをやるとなった時、同じ人ばかりが参加するような流れになっていますが、そうではなくて、皆が参加できるようなものがあればいいなと思います。施策展開にも住民主体のまちづくりや地域全体で子育てなど掲載されているように、決まった人だけではなくて、皆さんが楽しんでできるような、何かそういうものがあるといいなと感じます。

〔町長〕

とらまえようによっては、ひとがまちを創り、全員参加で活動することにより、今度はまちがひとを創るということで、皆さんに参画して頂きたいなという気持ちがここに書かれているように読み取れないわけではないですね。

〔川守田課長〕

大きい意味で、創造していくんだというような形で、大きく捉えて「創る」という言葉を当てはめたところです。

〔福士委員〕

創るは新しいものという意味もありますが、気持ちの問題で、新しく山田を創っていくんだと、震災から１０年経ったのだから、今までハードの部分で復興してきたと。これからは心の部分だとか、ソフトの部分で捉えればいいのかと感じています。

〔川守田課長〕

委員のおっしゃるとおり、そのような意味合いが込められておりました。

〔中村委員〕

山田の良さといえば、景色だったり、美味しいものだったりある中で、ひとの良さも言われ続けています。「山田のひとはいいひとだ、山田はひとがいい」というのを色々な所で押し出していたので、基本理念に「ひと」が入っているのは山田らしくてとても良いと感じました。ただ、本当の意味でひとがいいというのはわからない部分もあります。実際、普通に生活していて、ゴミのポイ捨てなど見られる。大人ももっと考えていかなければならないと思います。

〔町長〕

ちょっと話は変わりますが、ゴミのポイ捨てということで、最近マイクロプラスチックの問題などもございますが、海で仕事をする中村さんとして、近年のごみのポイ捨てなんかは増えていますか、減っていますか。

〔中村委員〕

昔からみればゴミはだいぶ減っていると思いますが、ポイ捨てはあります。ただ、地域の人の中にもゴミ拾いする人も増えてきています。

〔町長〕

来年度は町全体の取り組みとして、清掃活動を実施する予定で準備を進めています。そのことが子どもたちの教育にも繋がっていくと考えており、やはり行動しなくては始まりませんので。

教育次長の方からもこの教育大綱について、思いの丈を一つお願いします。

〔教育次長〕

今、皆様がお話されている中で、私も花崎係長と関わりながらこれをつくる所に携わったのですが、ハードとソフトという考え方があるのだろうなと思います。ハードの部分、この復興10年、ここから進む部分でまさに「創る」というのはハードの方に少しかかってくるのかなと思います。震災復興のその先の新しい一歩を踏み出そうとする山田町の中で、ひとづくりが進んでいくということがすごく大事ではないかなと思います。基本目標の（２）夢と希望にあふれる「学校づくり」、これはバフツとしたソフト的な学校づくりと新しくできる山田町の山田小学校、これに向かって進む２つの意味があるのかなと捉えています。豊かな心に部分については、やはり人と人との関わりであったり、心の繋がり豊かなさであったり、久雄先生のお言葉をお借りしますと、ひとが暮らしやすいまちの部分かなと思います。また、生きがいの部分は、一人一人が生涯学習の中で、先程花崎係長の説明にあったように、一人一人が積み重ねてやってきたものが生きがい、その横の繋がりが、中村さんのおっしゃるように、町の外の人との繋がりがだったりとか、そうした部分が豊かな心に繋がるのかなと思います。そして一番重要なのは、小野寺委員さんのおっしゃったように、この中から具体が見えてくるのかという部分です。この具体の部分については、来年度策定する山田町教育振興基本計画の中に、具体的に示されてくるのかなと私は感じています。先程の教育長の話で思ったのが、基本目標の（１）と（２）の関わりが、私は（１）はもっと大きいものではないかなと思いました。（２）を含んだ（１）ではないかなと。学習指導要領の目標が「生きる力を育む」

これは義務教育の中であって、その中に学校づくりが入ってくる。(1)(2)が一緒の大きなくりで説明した方が、しっくりくるかなと思います。

〔富士委員〕

これは大綱ですので、いわゆる具体にどう反映させるのか、その方が重要であります。言葉に踊らされて自己満足しないで、地道に取り組みを進めていくような教育であってほしいと思います。箱山先生がおっしゃったように全ての世代にからみがありますので、その文言だけに縛られないで具体で成果を上げていくような形で進めてもらいたいなと思います。

〔町長〕

まさしく久雄先生がおっしゃるとおりで、大綱、基本理念、基本目標ということでございますが、具体をどのように進めていくかが重要になりますので、その辺は教育振興基本計画などで肉付けをし、もう少し身近なものとして皆様方が受け止められるところに落とし込んでいくのだと思います。

そういったところで、大綱の基本理念、基本目標などはこのとおり決定するというところでよろしいでしょうか。

〔構成員〕

「よろしいです」という声あり。

〔町長〕

それでは、本大綱についてこの会議の総意として、本大綱案を了承して頂いたということで、山田町教育大綱をこのとおり決定いたします。

## 5 閉会（木戸脇復興企画課長補佐）